

## 富山循環型女性研究者育成システムの構築

(実施期間：平成 20～22 年度)

実施機関：富山大学（総括責任者：遠藤 俊郎（西頭 徳三））

### プロジェクトの概要

- ①人材資源の循環と女性研究者の裾野の拡大：富山県と連携して女性研究者の人材バンクを構築し、出産・育児中の研究者を支援するための代替教員・技術補佐員を補充するために活用する。女性研究者、女子大学院生による成果の情報発信を通して、女性研究者の裾野の拡大を図る。
- ②女性研究者の研究推進のための教育・研究環境の整備：優秀な女性研究者のリーダーシップ育成を図るための助成金制度、保育施設の拡充、アラカルト式研究支援による弾力的な労働時間の運用、地域連携型研究プロジェクトへの参画・技術補佐員配置によるキャリアアップ支援を行う。
- ③意識改革：男女共同参画宣言の策定、会議時間の適正化と効率化、講演等による啓発、Web メンターなどロールモデルの提示を行う。

### (1) 評価項目

総合評価	目標達成度	システム改革の成果	取組	波及効果	実施体制	実施期間終了後における取組
A	a	a	a	a	a	a

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

### (2) 評価コメント

学長及び理事の主導の下、システム改革と意識改革を積極的に進め、当初の目標を達成し着実な成果を上げている。また、地域における教育・研究の中核機関として地域自治体と積極的に連携を組み、女性研究者の活躍の場を広げ、地域における女性研究者の流動性を促進しており、評価できる。

**目標達成度**：意識改革の成果として女性研究者が増加し、当初の目標を達成したこと、また、女性研究者が極端に少ない工学部で初の女性教授が誕生したことは評価できる。今後は、医学看護系のみならず、理工学系分野での更なる女性教員比率の向上を期待する。

**システム改革の成果**：両立支援の取組などの環境整備、意識改革を着実に進め、システム改革を推進することで、機関全体の教員総数が減少する中、女性教員の増加を実現している。特に自然科学系分野の学部においては女性教授が7名増加し、倍増となっており、評価できる。

**取組**：育児短時間勤務制度、短時間勤務医師制度、介護のための短期休暇制度、女性研究者リーダーシップ育成助成金制度、非常勤講師採用制度など、本事業の実施により開始した取組が制度化され全学展開されている点は評価できる。

**波及効果**：女子中高生への啓発活動により工学部において女子学生が増加する効果が上がっており、また、地域自治体との連携により、地域に特化した人材バンクシステムの構築、情報発信環

境の構築等を実現しており、評価できる。

**実施体制**：学長、理事のリーダーシップの下、全学的、有機的な学内連携実施体制を構築することにより、取組の成果を効率的に上げている点が評価できる。

**実施期間終了後における取組**：実施期間中も自主経費を用いて取り組んだ取組が多く、実施期間終了後も推進室の人件費等に予算措置が講じられており、評価できる。また、女性研究者支援の様々な取組が制度化されており、継続性が期待できる。